

[9] 西都市小体連

I 年間事業

実施日	曜	事業名	主な内容	会場
7月10日	月	第1回体育主任会	今年度研究主題決定 年間行事計画確認 泳力向上プログラムについて	妻南小学校
8月29日	火	第2回体育主任会	主題研究について	妻南小学校
10月31日	火	第3回体育主任会	主題研究について 学体研の情報共有	妻南小学校
12月5日	火	第4回体育主任会(中止)	来年度の陸上競技会について 研究のまとめ	C4th 上でのやりとり
1月下旬		第5回体育主任会	来年度の計画	妻南小学校

II 事業部のあゆみ

1 西都市小学校泳力向上プログラム

各学校で5・6年生を対象に、記録会を実施し、25m以上泳げた児童に対して西都市小体連が表彰。

2 陸上記録会

各学校で実施。6年生を対象に体力テストで全体的に記録の低かった、ソフトボール投げ、シャトルランの記録会を実施。体力テスト時との比較を行い、伸び率を確認。ソフトボール投げに関しては、県標準記録達成者を県に報告。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題並びに副題

「主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方」
～ ICT を活用した授業実践を通して ～

2 主題設定の理由

小学校学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった教師の指導改善を行うことが示されている。

またGIGAスクール構想の実施において、児童一人一台のタブレットの整備が進められ、「体育・保健体育科の指導におけるICTの活用について」（文部科学省令和2年）では、繰り返し視聴による個に応じた支援・記録による課題把握・課題解決のための指導・支援が示唆されている。

加えて、ICT活用に対する教員の意識・実施状況・活用度を調べた。その結果、西都市の教員の実態として、ICT活用の重要性は理解しているものの、指導面において課題を感じている教員が多いことが分かった。

このことから、本研究では、ICTを利活用した授業の創造と展開を設定し、児童が主体的に自身の動きや友達の動きを視覚的に把握することや、対話的に課題解決をして振り返って深く学ぶことで次時に繋げたり、教師が記録を活用して的確な指導することで指導の改善を図ったりすることができるかと考え、本研究の主題と副題を設定した。

3 研究の内容

体育科における効果的なICT活用法の研究及び実践事例集作成（令和5年度・1年計画）

4 研究の実際

○ ICTを活用した授業の実践及び実践報告の作成

各学校の体育主任が主になって、実践報告を作成した。今回の実践を、西都市の全教員に報告した。

単元名 ハンドボール		対象学年 5, 6 年
ICT 利活用法について (☆ICT 利活用の場面 ◎ICT 利活用法)		
☆ シュートフォームの確認やスキル練習の仕方などを動画で視聴することで体の使い方をイメージしやすくさせる場面で活用している。(運動場、体育館)		
◎ 動画撮影が中心になるが、静止画やスロー再生などを活用することで、通常の動きの中では見ることで見えない体の使い方を確認できる。(運動場、体育館)		
◎ 指導者が示範できないような運動を様々なメディアを活用することで、正しい技能を児童に伝えることができる。(運動場、教室)		
時	3/8	写真等
導入	① 準備・準備運動(ドリルゲーム) 準備ができたチームからシュート練習(ゴール前からパスをもらってシュート) 2人組対面パス(慣れてきたら走りながら) ② 集合・あいさつ・学習内容の確認	【手本のシュートフォーム】
展開	③ シュートフォームの比較 ◎タブレット ☆ ICT を用いて、ペアにシュート動画を取ってもらい、手本のシュート動画と比較する。 ☆ ペアの児童にシュート動画を観察してもらい、良いところと課題を見つける。 ④ シュートゲームをする 身に付けたシュートを用いてシュートゲームを行う。パスシュートゲーム・二人組対面パス・パス、キャッチ、シュートの技能のポイントを考えながら練習を行う。 ⑤ タスクゲームを行う ハーフコート 2対1(チーム内)・友達とチームの課題や練習方法についてアドバイスを出し合う。(ジャンプシュートで決めると2点)	【ペアで動画を撮影する】
終末	⑥ 学習の振り返りをする ◎ ロイロノート	
児童の感想		
○ シュートを決めたときがとても楽しい。		
○ パスがうまくつながったときがうれしい。		
○ みんなで協力してボールをつなぐのが楽しい。		
○ チームで考えた作戦がうまくできたときが楽しい。		
指導者の感想		
○ 今回初めて自分のジャンプシュートを客観的に見たが、自分の思っている動きとかなり違ったようで、新たな発見があったようだ。児童の頭の中にある感覚を理解することができないので、今回のように客観視することが、技術の獲得に必要不可欠である。また、自身他者の課題を発見しやすい。		
● ネット環境に制限があるため、教室以外の場所では使用法が限られるのが難点である。		



単元名 マット運動		対象学年 3年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法)		
時		写真等
導入	・ 準備運動 ・ ウォーミングアップ ・ めあての確認	
展開	☆ 壁登り逆立ちの仕方を知る。(技の説明) ◎ お手本の動画を見る ☆ 壁登り逆立ちをする。(技の練習) ◎ 写真を撮り、アドバイスし合う。	
終末	・ 振り返り ・ 技のポイントの確認	
児童の感想		
○ かべに体を近づけることができた。		
○ 足をまっすぐのぼすことができた。		
○ 足をのぼして、10秒止まることができた。		
○ 友達のわざを見て、ちょっとアドバイスができた。		
指導者の感想		
○ お手本の動画を見ることで、技のイメージがしやすかった。技のポイントもスムーズに伝えることができた。		
○ 自分の姿を実際に見ることができると、友達同士でアドバイスを言うことができた。		
● 児童が写真を撮る時に、画面が回転してしまい、戸惑っている児童がいた。		

単元名 器械運動「マット運動」		対象学年 3年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法) (体育館内)タブレットの写真動画機能 (教室)ロイロノート		
時	5/6時	写真等 
導入	・場作り ・技の組み合わせを決め	
展開	☆ 課題解決(前半) 写真や動画の撮影およびアドバイス ◎ タブレット ☆ 課題解決(後半)	
終末	・振り返り ・片付け ◎ ロイロノートアンケート(教室にて)	
児童の感想		
○ 動画を見たら技が分かりやすかった。		
○ ポイントが分かってから、技に <u>ちようせんした</u> ので自信をもってできた。		
○ はじめはうまく出来なかったけど、友達からのアドバイスで少しずつできるようになった。		
指導者の感想		
○ 動画を活用することで、子どもたちがイメージをもちやすくなったり意欲向上につながったりした。指導改善にもつながった。		
○ 技のポイントについて、導入において動画で把握してから、展開において取り組むことで、課題を把握しやすくなり、グループのメンバーにアドバイスできていた。		
○ 動画をスクロールすることで、ポイントの箇所で静止画として、課題を視覚的にアドバイスし合えることができて効果的だった。		
○ 単元後半では、前時までの課題を生かして技をきれいにすることを、意識して行っていた。		
○ アンケートを単元の始めと終末に行うことで、子どもたちの変容が視覚的に把握できた。		
● ネット環境が体育館にも整うと、もっと効率的に学習が行えると感じた。ほかにも、利活用できる ICT を研究したいと思う。		

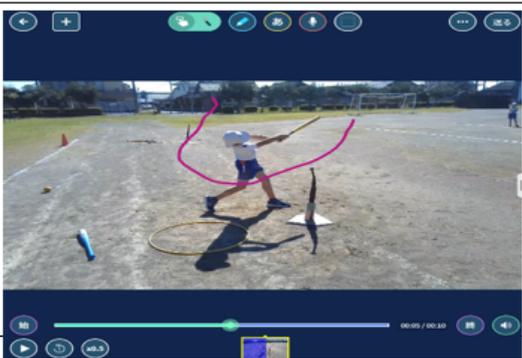
単元名 器械運動「跳び箱運動」		対象学年 6年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法) タブレットの写真動画撮影機能		
時	5/6 時間目	写真等 
導入	☆ 前時までに撮った動画をもとに本時の目標を考え、練習をする。	
展開	☆ 試技の際に児童が動画を撮影し、自分の技を振り返る場面を設ける。 ◎ タブレットの写真動画撮影機能 (写真は撮影した動画を停止している場面)	
終末	☆ 撮影した動画をもとに振り返りを行い、次時の目標を立てる。	
児童の感想		
○ アドバイスがしやすくなった。		
○ ただ見ているだけの見学ではなく、役割がもててよかった。		
指導者の感想		
○ 自分の技の様子を客観的に判断することができて有効であった。		
○ 積み重ねで自分の技を振り返ることができるのがよいと思った。		
○ 児童に動画を撮らせることで、教師が技の補助やアドバイスに専念できた。		
○ 見学者に役割を与えて、授業に参加させることに役立った。		

単元名 ボール運動「ハーフコートバスケットボール」		対象学年 6年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法) ☆ チームタイム、作戦タイム ◎ 作戦ボードやチームカード、ゲームの動画を振り返る		
時	1	2～7
導入	・オリエンテーション	・めあての確認を行う。
展開	・1時間の流れを確認する。 ・ドリブル、パス、シュートを練習する。	☆チームタイムを行う。 ・準備を行う。 ☆スキルアップタイムを行う。 ・移動・ゲームを行う。
終末	・学習の振り返り ・片付けを行う。	◎学習の振り返り ・片付けを行う。
児童の感想		
○ 相手のいないところに動いて、ボールを受け取ることができた。		
○ パスをつないでシュートをすることができた。		
		

○ タブレットをつかって作戦を立てたことで、考えを伝え合うことができた。

指導者の感想

- ポケット WI-FI を西都市教育委員会から貸し出しを行い、体育館での ICT の活用を行った。各グループの代表児童のみタブレット使用だったが、画面が重くなる時があり、体育館の WI-FI 設置の必要性を感じた。
- ICT を活用することで体育科学習への意欲の高まりや動画を確認することでより客観的な評価につながるように感じた。

単元名 ベースボール型ゲーム		対象学年 3年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法)		
時	5/8時	写真等 
導入	・バッティング練習を行う。 ティースタンドにボールを置いて、守備側に向かってボールを打つ練習を行う。	
展開	☆バッティングフォームを撮影して確認する。 撮影係がバッティングフォームを撮影して、その場でフォームの確認を行う。	
終末	☆上手な人のフォームとの比較・分析を行う。 上手に打てた人の動画を配り、自分のフォームと比較して分析を行った。 ◎ロイロノート(教室にて)	
児童の感想		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が思っているよりも、上からバットを振っていたので、次からは下から上に打ちたい。 ○ 動画で見ると、〇〇くん(お手本)がバットを下から上に振っていたことが分かった。 ○ バットが通った線にそって、次は振れるようになりたい。 		
指導者の感想		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が思っている動きと実際のバットの軌道の違いを認識することで、意欲的に課題を立てて取り組むことができた。運動場で撮影した後、教室に帰ってきてロイロノート上で動画をスローにしたり、お手本の友達のフォームを見ながら、バットの軌道上をペンでなぞったりして、フォームを分析することができた。次時で、分析したことを生かしてバッティング練習を行ったところ、前回よりも多くの児童が記録を伸ばすことができた。 		

単元名 陸上運動「ハードル走」		対象学年 5年
ICT 利活用法について (☆ ICT 利活用の場面◎ ICT 利活用法)		
(運動場)タブレットの動画撮影機能 (教室内)見本動画を見る・動画を見て動きを振り返る		
時	2~6	写真等 
導入	・準備運動 ・場の準備	
展開	☆動画撮影(フォームの確認) 頭の高さ・振り上げ足のかたち ・タイム測定	
終末	・振り返り ・片付け	
時間外	◎見本動画を見る(NHK for school 体育ノ介) ◎自分の動画振り返り→次時のめあてへ	
児童の感想		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 口だけの説明より動画で見た方が分かりやすい。(自分が思っているより高く跳んでいた・遠くから踏み切ることができていた・思ったより足が全然伸びていない等) ○ スローモーションで見られるのが分かりやすかった。 ○ 自分の動きと友達の動きを見比べることができた。 		
指導者の感想		
<ul style="list-style-type: none"> ● 運動場が Wi-Fi が繋がっていない環境なので、見本動画をその場で見せることや撮影した動画をその場で児童のタブレットに送って見せることができなかった。 ● 授業時間外に別に時間を取って動画を見て振り返りをするが、その場で行えた方がより効果的だと感じた。記憶や印象の新鮮さが失われるため。 ○ 効果的に見本動画を使い指導することができた。 ○ 児童は高学年(5年生)ということもありタブレット操作は特に問題なく行うことができた。 ○ 大きなケガをしている児童がいたが、撮影など役割を与えて、授業に参加させることができた。 		